

29年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
仕入 動向	国産材製材品	△ 57.1	△ 21.4	14.3
	外材製材品	△ 64.3	△ 21.4	14.3
	構造用集成材	△ 58.3	△ 16.7	16.7
消費 動向	国産材製材品	△ 57.1	△ 21.4	14.3
	外材製材品	△ 64.3	△ 21.4	△ 7.1
	構造用集成材	△ 58.3	△ 8.3	8.3
在庫 動向	国産材製材品	△ 50.0	△ 21.4	7.1
	外材製材品	△ 57.1	△ 14.3	14.3
	構造用集成材	△ 50.0	0.0	8.3

- ・プレカット加工用部材の仕入れは2月、3月の減少から、4月はやや増加。
- ・プレカット加工用部材の消費は2月、3月の減少から、4月は国産材及び構造用集成材はやや増加、外材はやや減少。
- ・プレカット加工用部材の在庫は総じて2月、3月の減少から、4月はやや増加。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/2月	3月	4月
受注	△ 50.0	△ 21.4	7.1
加工	△ 50.0	△ 21.4	7.1
受注残	△ 42.9	△ 28.6	7.1

- ・プレカット工場の受注、加工及び受注残は、2月、3月の減少が、4月はやや増加。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・国産材大型工場の建設に伴い丸太相場が強まり、物不足感が漂う。外材製材品は不需要期でやや減少。
- ・当月は不需要期のため仕入れは不足分のみ。国産材の消費の落ち込みは極端なものではないと思うが、それ以外はかなり落ち込む。外材製材品、構造用集成材共、在庫コントロールがうまくいく可能性が高まってきたが、問題はコンテナの入港のタイミングによると思われる。
- ・年が明けて、地場の仕事が急減。年度末を控えて完成引き渡し優先のため着工が少ない。
- ・今だに合板が入荷しづらい。

(受注動向)

- ・受注はやや堅調。加工は大きく減少。受注残は春待ち状態。
- ・不需要期からの受注回復は例年並みと思う。
- ・年明け以降、落ち着いた。